

# 「今、求められる体育・保健体育の授業」の創造に向けた ワークショップ 開催報告

1. 主催・共催 神奈川県女子体育連盟 かながわ保健体育・スポーツ学習会  
横浜国立大学（高橋和子研究室）  
桐蔭横浜大学（佐藤豊研究室） 東海大学（大越正大研究室） （順不同）
2. 後援 神奈川県教育委員会・横浜市教育委員会
3. 日時 2016年8月18日（木）13:00～17:00
4. 場所 横浜国立大学 教育文化ホール
5. 対象 公立及び私立小・中・高等学校教員及び大学教員、  
保健体育教諭を目指している大学生 等
6. 開催主旨

現在、中央教育審議会では、「対話的な学び」、「主体的な学び」、「深い学び」をキーワードとした次期学習指導要領改訂に向けた論議が進められています。また、21世紀を生き抜く子どもたちの資質・能力の育成に向けて、教員研修と教員養成の共同的な連携の機会の充実も求められています。そこで、神奈川県女子体育連盟、かながわ保健体育・スポーツ学習会、横浜国立大学、桐蔭横浜大学、東海大学等の体育科教育研究者の共同開催によって、学校、大学、教科研究会などの多様な立場が連携して体育科・保健体育科の改善のための交流を図る機会を企画しました。また、アクティブ・ラーニングやカリキュラム・マネジメントの視点から、小中高のつながり、体育と保健のつながり、領域のつながりなどを考えながら、ダンス、体づくり運動、スポーツの価値を題材としたワークショップを開催しました。

## **全体会** 今求められる授業づくりの視点を共有する中教審答申の見方、考え方

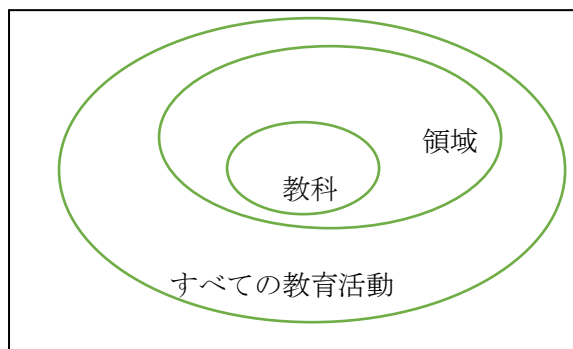
司会：佐藤豊（桐蔭横浜大学） 解説：高橋和子（横浜国立大学）

司会：「今、求められる授業づくり」という視点から、中教審の答申をみんなで考えていく時間である。本日は年齢・校種が、いい意味でばらばらであり、それだけ多様な視点で考えることができるよい機会ととらえている。例えばオリンピックといえば、日本では国威昂揚の高まるビッグイベントであり、欧米各国でも同様の盛り上がりが見られる。一方で、賭けの対象となっている国もある。スポーツをどうとらえるかの違い。中教審では、スポーツを広く浸透することではなく、運動を通してどのような人間を育てるかが示されている。人間教育なのだ。

評価の項目の中に表現力が明記されている。表現力とは、自分の得た知識をどのように伝えていくかという、アウトプットする力である。

解説：今回の中教審では、アクティブラーニングという言葉が加えられ話題を呼んでいる。先生と子どもが双方向で授業を進めるこの学び方は、小学校・中学校ですずっとやってきたことではあるが、今までの指導要領ではどのように学ぶのかという視点は盛り込まれていなかった。そういう意味で、アクティブラーニングが初めて提示されたのである。

司会：教科が中心にあり、その周りに領域があり、それを取り囲むように学校教育全体がある。それをまとめるものがカリキュラムマネジメントである。教科横断の視点も必要である。



評価は、形成的評価に重きを置く。PDCAのサイクルで、うまくいかなかったことを考査し、改善し、指導に生かすことが大切である。思考力・判断力・表現力がひとつの評価の観点となったことで、議論もあるだろうが、適切に理解し、適切な技能を習得し、適切に表現できてこそアクティブラーニングが達成できたととらえるべき。

保健と体育を一体として、くくったところには、具体的に体を動かして、健康になっていこうという方向がある。関わらないスポーツは、生きがいとして個人の中に残り、セルフプロデュースしていく力となる。以上を話題提供として、本日の分科会が実り多きものとなるようにして

いただきたい。

## 分科会①「ダンス」 創造的思考の基盤をつくる楽しい表現運動の始め方！

講師：高橋和子（横浜国立大学教授）・濱地優（附属横浜小学校）

横国大付属小、濱地先生の模擬授業、対象、小学校1年 表現・ダンス教材

谷川俊太郎「もこもこもこ」という絵本からイメージを広げて、創作ダンスをつくる。

先生の動きを真似してみよう、という指示から、先生役を児童が入れ替わって行う。

正解のない動きを体験する。自分が表現することばかりではなく、見る側を育てることでよい授業となる。

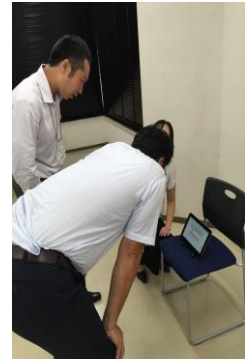
クラス経営も大切となる。



## 分科会②「体づくり運動」個別支援の充実のためのICTの有効活用！

講師：佐藤 豊（桐蔭横浜大学教授）

2人で1台、タブレットを使用し、体づくり運動のアプリをつかいながら、体ほぐしの運動の動画を見て、運動を知り、体験する。それを、自分たちにあった内容にカスタマイズする。さらに、全員で共有し振り返りを行うことができる。運動が見える工夫がされていること、2人でタブレットを使用することで、知識が高まったり、他者の意見を尊重する態度の育成にも期待ができる。最終的に、授業をしているのは教師という自覚を持って、タブレット教材を取り入れていくことが大切である。



### 分科会③「スポーツの価値」を考える授業！（カリキュラム・マネジメントの視点を取り入れた小中高の授業づくり）」

講師：大越正大（東海大学准教授）・杉山正明（星槎大学非常勤講師）

スポーツの価値を考えるとというタイトルで、カリキュラムマネジメントを体験した。スポーツの価値を教育の中にどのように取り入れていくかという視点で授業作りをした。

② 対象：中学生 体育理論 オリンピックに関わる人

②対象：高校生 体育理論 東京オリンピックで自分ができることは？

③ 対象：高校生 保健 薬物乱用とドーピング

④ 対象：小学生 道徳 ブーイング、それはいいこと？悪いこと？

授業づくりを体験することで、議論が深まった。

いろいろなシチュエーションを持ち、日ごろからネタ探しをしておくことも、授業を盛り上げるコツである。





### 分科会の情報共有・まとめ

各分科会の報告会を行い情報共有した後、講師の先生方よりフィードバックをいただきました。



「今、求められる体育・保健体育の授業」  
の創造に向けたワークショップ  
今求められる授業づくりの視点を共有する  
中教審審申の見方、考え方  
佐藤豊氏 高橋和子氏

このたび、神奈川県教育委員会、横浜市教育委員会の後援やご協力をいただき、素晴らしい講師の先生方を迎え、そして、多くの保健体育の授業を真剣に考える方と、「これからの保健体育の授業の創造に向けたワークショップ」を開催できましたことに、深く感謝申し上げます。また、横浜国立大学のダンス部の皆さまには、スタッフとしての協力だけでなく、神戸での全日本大学ダンスフェスティバルのダンスを披露していただき、大変充実した会となりました。何より、保健体育の授業に対する熱い思いをもった皆様と時間を共有できたことに感謝いたします。この熱い思いが良い授業づくりに必ずつながるのではないかと強く感じました。ご協力本当にありがとうございました。  
(幹事： 原悦子)